

事業報告書（令和5年度）

事業名 自然探検「こどもの森のしぜんとあ・そ・ぼ」

団体名 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター 担当者名 廣川 祐子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

①「セミの抜け殻を探そう」 講師：多田正和

令和5年7月17日（月・祝） @国際児童年記念公園こどもの森 参加者 15世帯 35名



講師として多田正和さんを迎え、また5歳位から参加している高校生が今年も助手を務め、子どもたちやその親と一緒に木の上や葉っぱについての抜け殻を採取し、それを種類ごとに分類し、個数を数えました。その後、集めた抜け殻に枝や葉っぱ等を加えて、それぞれが記念のオブジェを作成しました。大学生のボランティアと一緒にセミの抜け殻や虫の話をして、楽しく公園を回りました。セミの数は、NHK シチズンラボ「セミ大調査 2023」にも報告しました。

②セミと遊ぼう！・とる・みる・しる・ 講師：島田夏実

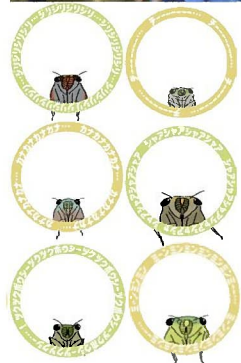
令和5年7月29日（土） @国際児童年記念公園こどもの森 参加者 7世帯 18名



蚊帳の中はセミの世界

←網の持ち方、
使い方を説明

蚊帳の中にセミを放し、飛ぶ音を聞いたり、触ったりして観察



←ネームフォルダーを作成

生きているセミに触れ、観察をすることで、いきもの魅力を発見することを目的に実施しました。最初は、触るのも怖かった子どもも飛ぶときの羽音を聞き、羽根や顔・体を触れるようになり、セミの面白さに気づくことができました。セミをよく見て、スケッチし自分だけ

の図鑑を作成することができました。最初に網の使い方を説明したので、自らが網でセミや虫を捕まえることができたので、より生き物が身近なものになりました。

③自然観察会

i. 夏の観察会 「夏の生き物をさがそう」 令和5年6月25日(日)

(参加費不要、自由参加)



こどもの森で気になるものを探し、不思議なもの、動くものを探し、NOI岡山の方々に説明をしてもらいました。その説明を聞きくと驚くことがいっぱいあり、興味関心が高まりました。子どもたち同士で、虫を探し、その虫に興味を持ち、一緒に学んでいくことが楽しいと感じていたことが感想からもわかりました。漠然と見ていた自然の魅力を体感することができました。

ii. 秋の観察会 「どんぐりを探しに行こう!」 令和5年10月29日(日)

(参加費不要、自由参加)



自然観察指導員の方と一緒に、こどもの森にあるどんぐりをさがしました。見つけたどんぐりについて、特徴を聞けば聞くほどおもしろくて、興味関心が高まりました。こんなにもたくさんの種類のどんぐりがあることが大きな発見でした。

2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

セミの抜け殻調査：これまで参加したことのある人は、より積極的に探し、また自分の好きな抜け殻を見つけようとしていました。そして、個数が少ないことに「なぜだろう？」の疑問を持ちながら探していました。分類するところでは、周りで悩んでいる人にも気を配り一緒に考えたり、教えてあげたりしていました。初参加の方は、抜け殻に触るのもこわごわ触っていました。また、抜け殻の種類が多様であり、見つけ方を知ることで、セミの抜け殻や生物について細かなところを見る目を養うことができるようになっていました。発見したこと、驚いたことなどを声に出して、他の人に伝えていて、共感も広がっていました。

自然観察会：自然観察指導員の方々から、実物のどんぐりや植物を観ながら、植物の知識やそれにまつわるエピソードを聞くことが大変に楽しく、興味関心が高まりました。

②どのように学び合いを取り入れたか
<p>学んだことを全員で共有することで、あらたな発見につながり、それにまつわるエピソードや助言をもらい、さらに学びを深めることができました。また、書籍や図鑑の紹介などしてもらい、個々に学べる機会をもらうことができました。</p> <p>子どもたちは、見たものや知ったことを記録することで、より確かな学びになりました。</p>
③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
<ul style="list-style-type: none">・学んだことをそのままにしておくて忘れてしまいがちなので、記録にとどめるためにスケッチをしたり、発見したことを手作りのセミ図鑑に記録するなどの工夫をしました。・大人は、学んだことを簡単な新聞にして関係者等に配付してお知らせしました。」・講師の多田さんの勧めで、第 10 回おかやま環境教育ミーティングに参加しました。その際に活動の様子や学んだことを報告するための掲示物を作成しました。高校生や大学生も一緒に参加し、他の方々の様子を見て刺激を受けました。「次回は〇〇しよう！」という前向きな意見もあり、継続することへの意欲を感じることができました。他者からの刺激の大切さを実感しました。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
<p>色々な体験を通して、身近なところに自然環境があること、その自然の不思議に気づくことができました。特に大人は、普段気づかないことを知ることができ、この活動に参加したことがある子どもたちの興味関心が高いこと、知識が豊富であることを見聞きすることで、体験することの大切さを感じていました。また、継続した体験を通して、考え力・推測する力が高まることを実感されていました。子どもたちは、他の参加者と一緒に虫を捕まえること、意見交換をすることが楽しいと感じ、生き生きと活動していました。その様子を大人が見ることで大人も刺激を受けていました。</p> <p>日常生活においても、自然を見る目、実体験が大切で、そのことを通して他の事象とつなげて考えられることがわかり、喜びになっていました。</p>
4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
<p>子どもの頃の様々な体験は、大人になって興味関心の扉を開くことにつながります。子どもの頃に身の回りの自然を体験し、知識を蓄積することで、中学生高校生と年齢が大きくなって得た体験や知識とつなげて考えられるようになります。また、多様な年齢の人と共に体験することで、他者と活動することへの敷居が低くなり、多様な人から学ぶことがおもしろいと思えるようになり、次第に世界が広がっていきます。</p> <p>実際に、このセミの抜け殻調査に参加したことがきっかけとなり、倉敷の自然博物館に出向くことをはじめとして、自然体験リーダーズクラブの講座を受講したり、県外の関係する施設で研修を受けるなど、自らの力で前へと進んでいる若者がいます。その姿を見聞きすることで、ロールモデルとして、子どもたちが影響を受けることを期待しています。セミの抜け殻調査では、今年も NHK シチズンラボ「セミ大調査 2023」にセミの抜け殻調査の結果を報告しました。岡山での調査が全国とつながり、より広い視野で自然観察をすることにつながっています。</p> <p>1 月に次年度の計画について協議しました。できる範囲で専門家の方々との交流も含め、活動の計画と学びを継続していくことを確認しました。あわせて、より子どもたちの学びにつながるよう、記録する、可視化するなどの工夫をしていくことも確認しました。</p>